



国芳と芳年

KUNIYOSHI TO YOSHITOSHI

～幕末明治の奇想浮世絵師

◆講師 名古屋市博物館 副館長 神谷 浩

幕末明治の浮世絵は近年人気が高まっています。幕末に活躍した歌川国芳は武者絵や戯画に新機軸を打ち出し、現代人に高い人気を誇ります。国芳には「芳」のつく弟子が多くいましたが、なかでも月岡芳年は「最後の浮世絵師」と呼ばれ、近年再び高く評価されています。「挑む浮世絵 国芳から芳年へ」の開催を前に、これら「芳」のつく国芳ファミリーの作品を見ながらその魅力に迫ります。

歌川国芳「相馬の古内裏」(部分) 名古屋市博物館蔵 (高木繁コレクション)



- ◇開講日 1/14、28、2/11
指定月曜日 13:30~15:00
- ◆受講料 2ヵ月(3回)分
展覧会チケット付き 6,500円+税
- ◇持ち物 筆記用具

■1/14【奇想の画家 国芳】

旺盛な好奇心を持ち自由な発想で作画に臨んだ歌川国芳(1798-1861)は奇想の画家と言われています。武者絵、戯画、風景画など国芳を特色付ける作品の数々を鑑賞し、人気の秘密を確認します。

■1/28【最後の浮世絵師 芳年】

国芳の奇想をよく受けつぎながら、新時代の浮世絵を描いた月岡芳年(1839-1892)は「最後の浮世絵師」と言われています。写実的な女性表現や、時代を色濃く反映した残虐絵「血みどろ絵」など、その作品を広く紹介します。

■2/11【「芳」ファミリー】

国芳から芳年へ、画風がどのように継承されたかを確認するとともに、芳艶、芳幾、芳員、芳虎、芳盛、芳藤ら、親分肌の国芳を慕って集まった多くの弟子の作品も紹介しながら、明治にいたってもなお新たな魅力を放ち続けた最終期の浮世絵の魅力に迫ります。

神谷 浩 かみやひろし

愛知県生まれ。名古屋大学大学院文学研究科修了。名古屋市美術館、名古屋市博物館副館長を歴任。専門は日本近世絵画史、浮世絵、近代日本画。国際浮世絵学会常任理事。主な企画担当展覧会は『メトロポリタン美術館浮世絵名品展』(1995年)、『北斎展』(2008年)、『大浮世絵展』(2014年)など。2019年以降、大規模美術展が控えている。近刊に『広重一雨、雪、夜 風景版画の魅力をひもとく』(青幻舎 2017年)

中日文化センターへ
初めてご入会される方は、
別途登録料(500円+税)が必要です。



名古屋・栄 中日文化センター

※講座により募集締切日が異なりますので、お問い合わせください。
※お申込みの人数によっては、開講中止となる場合もございます。予めご了承ください。

〒460-0008 名古屋市中区栄4-16-36 久屋中日ビル7F

0120-53-8164

10:00~19:00(日曜日は17:00まで)

※内容・日程は変更になる場合がございます。ご了承ください。
※受講料には維持管理費が含まれています。